

入選

## お互いの心のワクチン

宮崎県 都城泉ヶ丘高等学校附属中学校 三年  
大形 らら

あの子が戻ってきたらコロナの話、控えた方がいいんだよね。きっとコロナだったって知られてるの、嫌だよね。

そう心に留めていた3年前。コロナ禍になって間もない頃は「コロナ差別」で感染するのも怖かったし、感染した人との接し方もわからなかった。マスクや黙食をしなければならなくなり、離れて座ることも心がけた。

過去を振り返ってみると、今では当たり前に行っていることが3年前では私なりの精いっぱい行動だったのだな、と思う。

今のクラスメイトと過ごしてきて、もう3年がたとうとしている。入学から今まで、お互いにマスクなしの生活はしたことがないが、コロナ禍の中、友達は私の心の支えになってくれた。いろいろ我慢することが多かったが、それでも友達と小さな楽しみを見つけることは楽しかった。

私は、そんな友達とやっているグループ LINE を気に入っている。そのグループは、コロナに感染してしまった一人の友達から始まった。その友達は学校で誰かにうつしているかも、と心配してみんなに伝えてくれた。

きっと、報告するのは不安もあっただろう。それでも報告してくれた友達の気持ちを思うと、心がポカポカした。それからは、みんなも報告するようになった。そのたびに送られる温かいメッセージには、私も助けられた。これは、優しさの循環で私たちの心のワクチンだと思う。

感染症を知り、思いやりの心で支え合って予防する、という心のワクチンを知った今、いろいろなイベントが短縮、中止になって我慢したり、制限が少なくなってもお弁当の時間、誰も話さなかったりするのには、心のワクチンの副作用でみんなが予防を意識しているからこそであると思う。

副作用は少し嫌だけれど、お互いの心のワクチンが効いている、と考えるとみんなの親切の積み重ねが近い未来の自由へとつながるのかもしれない、と嬉しくなる。

自由を奪ったコロナウイルスはいまだ許す気持ちにはなれない。しかし、コロナ禍で人の温かさを知ることができたことに感謝したいと思う。